令和2年度　市民大学前期講座プログラム（案）一覧

協議資料2

No	講座名 コース（案）	趣旨	主な受講対象者 （世代など）		テーマ	講師(または内容)	提案者	備考欄（委員）	備考（事務局）
①	**自転車の創る未来社会** （現代の社会問題）	こんにち自転車は，材質，モーターアシスト構造などの技術発展は日進月歩。一方，電気自動車の開発などエコ対策も進んでいる。エネルギー効率を考えると自転車と自動車の境界は曖昧になるのではないでしょうか？ 本講座では，移動手段におけるエネルギー効率，エシカル生活による街づくりや地域活性，自転車と健康などを通してエコで健康な未来社会を考えます。	自転車に乗れる人，興味のある人なら年齢を問わない。	1	自転車がつくる近未来社会 自転車，道路，食，風呂・・・自転車乗りの集う場には地域を元気にする力がある？	疋田　智（自転車ツーキニスト）	粟生田　忠雄	自転車の乗り方（交通マナー）についてあらためて知りたいと思いました。（田中）	・H20（市民企画講座）「自転車の”みち”をつくろう」※前期：87名（定員70名），後期：24名（定員20名） ・過去，市民企画講座として上記の講座を実施しましたが，後期受講者が後期ゼミ終了後自主グループを結成し，現在も活動が続いています。 ・自主グループと連携し，講座を展開することが可能です。
				2	自転車のエネルギー効率（人類の移動手段の中で最も効率的）	本川達雄（東京工大名誉教授）			
				3	電気自転車と電気自動車の境界（バッテリー性能の向上で境界が曖昧に？）				
				4	自転車とクルマの共生社会（道路設計，自転車通勤・通学）	鷲尾　英一郎（自転車活用推進議員連盟 メンバー（2019年5月現在））			
				5	自転車と健康（ストレス解放など）	スポーツドクター：（NHKチャリダ-2019.5.11放送に出演）			
				6	自転車イベント（新潟シティーライド，佐渡ロングライド，ツールドつまり，越後長岡チャレンジサイクリング，新潟ヒルクライム・・・）	新潟市スポーツ振興課			
				7	自転車とその文化 （開発の歴史，コミックによる自転車の啓発）	『弱虫ペダル』渡辺航氏，『かもめ☆チャンス』玉井雪雄氏			
				8	自転車と街づくり （オランダ，ドイツ，シアトル・・・）	特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会			
				9	日本と世界の自転車関連産業	コーディネーター			
				10	自転車を用いた未来社会像	コーディネーター			
②	**健康維持とアスリートのための食事管理** （生命・自然科学）	健康維持とアスリートにとっての食事管理の重要性を知り、その具体策の立案、実行について学ぶ。	健康維持とスポーツを食事管理という面から見直してみたい方々、例えば主婦、アスリート、学生、中高年の成人など幅広い年齢層を対象	1	食事による健康維持のための方策	コーディネーター	追手　巍	コーディネーターと相談の上、テーマの変更、講師の選定を進める。	・H9「現代生活とスポーツ」※前期：27名（定員70名），後期：14名（定員20名） ・H21「医科学の眼でみるスポーツ」※前期：56名（定員70名），後期：17名（定員20名） ・アスリートのためのとなると対象が狭まる可能性があります。一般市民もスポーツを楽しめる（やる・観る）といった，⑤（角張委員の案）の「スポーツ観戦者視点」（スポーツ観戦の心理，スポーツの歴史）など，2020年東京オリンピックを意識した要素の追加についてご検討いただければ幸いです。 ・「健康とスポーツ初耳学」的な捉え方で，公開講座はアスリート（オリンピック経験者）を講師にお呼びするのはいかがでしょうか。
				2	健康・栄養状態の評価	齊藤　トシ子（新潟医療福祉大学健康栄養学科教授）			
				3	幼児期・少年期の食事に関する注意点	西原康行（（新潟医療福祉大学健康スポーツ学科教授）			
				4	成年期の食事に関する注意点				
				5	高齢期の食事に関する注意点				
				6	健康維持のためのスポーツの活用				
				7	アスリート育成のための食事管理（青少年期）				
				8	アスリート育成のための食事管理（成人期）				
				9	アスリートのリハビリと食事管理				
				10	各講座講師・コーディネータ・アスリート代表を交えた討論会				
③	**ミュージアムから見た新潟** （新潟学）	それぞれのミュージアムに課せられたミッションのもと、歴史、美術、産業、個人の偉業…など様々な角度から新潟を見つめてきたエキスパート達が語る深イイ新潟の話。新潟市域外からの視点も取り混ぜ、より高度で豊かな新潟理解を目指します。		1	多彩なる新潟文化の源流と支流	神林恒道　（にいがた文化の記憶館　館長）	田中　茉莉恵	コーディネーター 横山秀樹（新潟市新津美術館館長） 田中茉莉恵（北方文化博物館学芸員） 後期ゼミナール ①見学会1　：　文化の記憶＆北博 ②見学会1についてディスカッション ③見学会2　：　雪梁舎＆マリンピア ④見学会2についてディスカッション ⑤見学会3　：　植物園＆新津美術館 ⑥見学会3についてディスカッション	・H12「南画家に見る人間性」※前期：43名（定員70名），後期：18名（定員20名） ・H21「美の響演―美に酔い，永遠の世界を垣間見よう―」※前期：85名（定員70名），後期：12名（定員20名） ・可能であれば，「県外からみた新潟」のお話や日本初公開の展覧会開催までの裏話，阿修羅ブームや若冲ブーム，刀剣ブームなど「流行に見る博物館の現在」，「新潟における展覧会，芸術展の歴史」，「地域と芸術文化（大地の芸術際）」などについての要素もご検討いただければ幸いです。 ・講座名については「アートからみえる新潟の光」というのはいかがでしょうか。
				2	「豪農の館」を支えた大地―横越とその周辺	神田勝郎　（北方文化博物館　館長）			
				3	「越後の都・上越」を見つめ直す	花岡公貴　（上越市立歴史博物館　副館長／学芸員）			
				4	信州から見た越後、新潟。	笹本正治　（長野県立歴史館　館長）			
				5	燕の金属産業と新潟	齋藤優介　（燕市産業史料館　主任学芸員）			
				6	大日本地名辞書を独力編さんした吉田東伍の故郷	渡辺文男　（阿賀野市吉田東伍記念博物館館長）			
				7	新潟の人々と植物	倉重祐二　（新潟県立植物園　園長）			
				8	水族館から見た新潟の魅力	加藤治彦　（マリンピア日本海　館長）			
				9	企業美術館から新潟市民へのメッセージ	捧　実穂　（雪梁舎美術館　理事長）			
				10	総括　博物館で新潟を学ぶこと―博物館学から	横山秀樹　（新潟市新津美術館　館長）			
④	**人口減少社会と私たちの暮らし** （新潟学）	少子高齢化・人口減少社会が私たちの暮らしに与える影響を経済学的視点から論じる。	興味のあるかた	1	序論：人口減社会における課題とは		長谷川　雪子	「少子高齢化社会について」というテーマで④と⑩の内容がま とめて1講座になっていると聞きやすいのかなと思いました。（土台となる学問 が異なるとは思うのですが）（田中委員） ⑩の案を入れた案を作成してみましたが、どの要素を入れるかは、判断に悩むところもあり不確定です。（長谷川）	・H6「都市としての新潟を考える」（都市論的視点）※前期：90名（定員70名），後期：32名（定員20名） ・H7「都市としての新潟を考えるⅡ」（文明都市，国際都市，産業都市視点）※前期：72名（定員70名），後期：20名（定員20名） ・H8「都市としての新潟を考えるⅢ」（国際人，日本人視点）※前期：54名（定員70名），後期：16名（定員20名） ・H9「都市としての新潟を考える」（快適な生活環境視点）※前期：50名（定員70名），後期：20名（定員20名） ・H16「暮らしの中の金融」※前期：96名（定員70名），後期：14名（定員20名） ・H19「新潟都市圏の公共交通を考える」※前期：38名（定員70名），後期：なし ・H22「経済学　おもしろ事情」※前期：94名（定員70名），後期：なし ・行政の取組や課題をテーマとした行政視点の講座から受講者の暮らしに結びついたテーマの経済学を考える受講者視点の講座の方が過去，多くなってきました。受講者の暮らしでよく目にする，耳にするワードから経済学を掘り下げていくような導入の組み立てについてご検討いただければ幸いです。 ・暮らしの視点からにいがたを観る⑩（橋本委員の案）の要素も取り入れていただき，「わかり易いにいがた経済学（暮らし学）」というような講座はいかがでしょうか。
				2	人口減と雇用	新潟県産業政策課			
				3	人口減と地方の取り組み	新潟県暮らし推進課			
				4	地方財政の課題	宍戸　邦久（新潟大学経済学部　教授）			
				5	少子化対策への取り組みと課題	新潟市こども未来部			
				6	税制と私たちの暮らし	藤巻　一男（新潟大学創生学部　教授）			
				7	年金制度と私たちの暮らし	青柳 親房（新潟医療福祉大学社会福祉学部教授）			
				8	地方の公共交通	藤堂　史明（新潟大学経済学部　准教授）			
				9	健康を維持するためには				
				10	身体をサポートする支援技術				

No	講座名 コース（案）	趣旨	主な受講対象者 （世代など）	テーマ	講師(または内容)	提案者	備考欄（委員）	備考（事務局）
⑤	**弁護士と学ぶ** **司法入門** （現代の社会問題）	裁判員制度が実施されて、ちょうど10年を過ぎました。最高裁判所の裁判員制度の紹介ホームページには「国民のみなさんが刑事裁判に参加することにより，裁判が身近で分かりやすいものとなり，司法に対する国民のみなさんの信頼の向上につながることが期待されています。」とあります。10年経ち、裁判や司法は私たちの身近なものをなったでしょうか。裁判や司法の世界について、学んでみたいと思います。実は私たちの生活に大きくかかわる法律、でも意外に知らない法律の世界をのぞいてみたいと思います。		1 入門！私たちの国の司法の仕組み	新潟県弁護士会 弁護士	角張　慶子	新潟大学　法学部に依頼できるか確認し、渡辺豊法学部長からは可能であるとの返信がございました（長谷川）	・H17「弁護士・裁判官と学ぶ家族の法律」※前期：92名（定員70名），後期：19名（定員20名） 市民大学で，これまで司法についての講座は上記のみであり，当時の受講者数が定員を超えていることやH28に実施したボランティアによる自主企画講座（テーマは相続法の基礎）の参加者数（40名（定員：30名））から，関心がある分野と見られます。 また，テーマについては意外と知られていない法律や知らないと損をしてしまう法律など受講生の暮らしに直接役立つような要素，構成（例：「法律を知る」，「身近な裁判事例を知る」，「裁判員制度のあり方」）についてご検討いただければ幸いです。 ・テーマによっては，学生をターゲットとする可能性もあります。
				2 司法の世界で働く人 ～弁護士ってどんな人？～				
				3 司法の世界をのぞいてみよう ～裁判とはなにか？～				
				4 司法の世界と私たち ～裁判員制度とはなにか？～				
				5 司法の世界と私たち ～人権と法～				
				6 私たちの身近な司法① ～子どもと法律：学校の問題～				
				7 私たちの身近な司法② ～消費者トラブルと法律～				
				8 私たちの身近な司法③ ～労働と法律～				
				9 私たちの身近な司法④ ～相続と法律～				
				10 総括				
⑥	**認知症とともに** （現代の社会問題， 人間理解）	「なりたくない病気」とされる認知症への偏見を払い、支え合う地域社会について学ぶ	親族ら周囲に認知症の人がいる人 認知症の人のケアに携わる専門職 認知症に関心のある学生ら	1 認知症をめぐる最新事情と新潟県の現状	池内健・新潟大脳研究所生命科学リソース研究センター教授または高橋正子・県高齢福祉保健課政策企画員	阿曽　晋	私としては10回の講座に通底するのが、まさに「共生」と考えています。 認知症に「ならない」「負けない」ではなく、かつ、支援者視点の一方的なサポートではない、本人を中心に置いた「認知症とともに」です。 家族、介護スタッフ、ご近所が疾患について正しく知り、行動することが、 支え合う社会の実現につながるはずと思います。 また、「暮らしの視点」についても、すべてが「暮らし」そのものと捉えています。 例えば、見当識障害による一人歩き（徘徊）に対応した、住居内表示の工夫について触れることもあるでしょうし、「安心して外出できる見守りの街づくり」、本人と介護者が集う「認知症カフェ」など、④、⑩の案と共通した問題意識を盛り込んでいると考えます。（阿曽委員）	・H12「脳と人間の科学」※前期：75名（定員70名），後期：30名（定員20名） ・H19「脳と疾患」※前期：99名（定員70名），後期：なし ・「認知症」について，過去の講座で講座プログラムの一部としては取り上げたことがありますが，メインテーマとしてはまだありません。誰にでも発症する可能性があることや年々患者が増加していることからも「認知症」は身近なものと感じている方は多いと思います。 ・「共生社会」の在り方として認知症を捉えるほか，暮らしの視点から捉えて④（長谷川委員の案）と⑩（橋本委員の案）を含んでご検討いただくことは可能でしょうか。
				2 認知症の理解と援助	杉山孝博・認知症の人と家族の会副代表理事			
				3 認知症のケア技法「ユマニチュード」	本田美和子・国立病院機構東京医療センター			
				4 家族会の歩み	高見国生・認知症の人と家族の会前代表理事			
				5 若年性認知症の人の思いとケア	永田久美子・認知症介護研究・研修東京センター研究部部長（三条市出身）			
				6 認知症当事者からの発信（公開講座）	藤田和子・日本認知症本人ワーキンググループ代表理事または丹野智文・同代表＋永田久美子・認知症介護研究・研修東京センター研究部部長（三条市出身）			
				7 認知症カフェと地域共生	矢吹知之・認知症介護研究・研修仙台センター研修部長			
				8 全国つなぐ共生ネットワーク・RUN伴の取り組み	徳田雄人・NPO法人認知症フレンドシップクラブ理事・東京事務局代表			
				9 安心して外出できる見守りの街づくり	大牟田市保健福祉部			
				10 ポジティブに認知症	山口晴保・認知症介護研究・研修東京センター長・群馬大名誉教授			
			その他の講師候補	11 オレンジ・ドアと多職種連携	石原哲朗・みはるの杜診療所医師			
				12 在宅での認知症ケア	高瀬義昌・たかせクリニック理事長			
				13 アルツハイマー病創薬の現場	柳澤勝彦・国立長寿医療研究センター・認知症先進医療開発センター研究所長			
⑦	**皆で感染症を** **考えよう** （生命・自然科学）	感染症は、太古から現代に至るまで、人類にとって最大の脅威の一つである。今も終わりなき戦いが続いている。 感染症を正しく理解して、適正に対応することは、個人にとっても、社会にとっても、大切な課題である。 改めて皆で感染症を学び、考えたい。		1 感染症との戦い　―　日本人の活躍	19世紀末から20世紀にかけて、感染症の病原微生物が次々と発見されたが、日本人も大きく貢献している	荒川学長	コーディネーター 菊地利明　教授 （新潟大学呼吸器・感染症内科学） 松本壮吉　教授 （新潟大学細菌学） 講師については、1と10は、コーディネーターにお願いしたい。2－9については、コーディネーターに選んでいただきたい。	・H17「人類とウイルスの共存を考える」※前期：65名（定員70名），後期：21名（定員20名） ・H22「人類と微生物の戦い」※前期：56名（定員70名），後期：なし ・H27「今改めて”感染症”について学ぼう―感染症は変貌しつつあるのか―」※前期：67名（定員70名），後期：なし ・約5年に一度の間隔でウイルスまたは感染症についての講座を実施しており，受講者数はいずれも80%以上です。（参加者数が読める講座でもあります） ・最近話題の蚊やダニを媒介とした感染症もご検討いただくことは可能でしょうか。
				2 結核	かつて不治の国民病といわれた結核は、私達の眼前から姿を消したかにみえるが、現在でも注目すべき重要な疾患である。			
				3 感冒・インフルエンザ	感冒（風邪）は、最もポピュラーな疾患の一つ、インフルエンザも、毎年話題の中心になっている。 時に混同される両者について、勉強しよう			
				4 エイズ・性感染症	エイズは、死が不可避な病気でなくなったが、未だ不治、進行する病気である。今、影を潜めていた性感染症が、再び勢いを増している。改めて注目してほしい。			
				5 腸管感染症・食中毒	食べることが生きるために必須である限り、ヒトは常に腸管感染の危険にさらされている。適切な対応で感染を防ぎ、楽しく食事をしよう。			
				6 高齢者肺炎	肺炎は、癌・心疾患・脳血管疾患に次いで、死亡原因の第4位であり、とくに高齢者においては健康維持における重要な課題である。			
				7 抗菌薬・抗ウイルス薬の正しい使いかた	感染症治療において、病原と薬剤の戦いは終わりがなく、耐性菌の出現は不可避ともいえる。適正な抗菌薬を、必要な時に正しく使用することが、いかに重要であるか、勉強してほしい。			
				8 予防接種はなぜ必要か	予防接種は、個人にとっても、社会にとっても、必須なものであるが、副作用を危険視するあまり、本来の意義が見逃されている。予防接種について、改めて勉強しよう。			
				9 癌とウイルス	ウイルスが原因である癌の存在が、広く知られてきた。癌とウイルスの関連について、予防、治療も含めて、勉強しよう。			
				10 人と微生物の終わりなき戦い	人類が生きていく限り、感染症は姿、形を変えて、立ちはだかってくる。この永遠の戦いに、私達は常に叡智を結集して対応しなければならない。市民大学で、感染症が時折取り上げられるのも、理解できることと考える。			

No	講座名 コース（案）	趣旨	主な受講対象者 （世代など）	テーマ	講師(または内容)	提案者	備考欄（委員）	備考（事務局）
⑧	**超高齢化社会に向けた支援技術及び生活空間の提案** （現代の社会問題）	高齢化社会に向かい、様々な環境変化、社会問題が浮かびあがっている。避けることの出来ない高齢化における身体の感覚変化を理解しつつ、今後の暮らしに備える知識、現在進行中の研究について理解を深める。	60代、70代、80代	1 超高齢化社会とは	福祉工学研究者	橋本　学	「少子高齢化社会について」というテーマで④と⑩の内容がま とめて1講座になっていると聞きやすいのかなと思いました。（土台となる学問 が異なるとは思うのですが）（田中委員）	・H8「人間とデザイン」※前期：55名（定員70名），後期：14名（定員20名） ・H26「新潟と感性豊かなものづくりとその展望」※前期：54名（定員70名），後期：24名（定員20名） ・過去の講座でデザインやものづくり等をメインテーマとした講座はありましたが，超高齢化社会/デザイン/建築を絡めたプログラムはありません。住環境やリノベーションをテーマとした回で，安価で簡単にできるDIYの事例紹介や建築学的，工学，光領域などの視点からの検討は可能でしょうか。 ・左記の田中委員のコメントにもございますが，④（長谷川委員の案）を含んでご検討いただくことは可能でしょうか。
				2 加齢による感覚変化	医学部、保健学科　研究者			
				3 健康維持するためには	工学部人間支援　研究者			
				4 ユニバーサルデザインとは？	工学部人間支援　研究者			
				5 暮らしやすい住空間1（建築の視点で）	建築家1			
				6 暮らしやすい住空間2（建築の視点で）	建築家2			
				7 住空間のリノベーション(事例紹介)	企業			
				8 自動車運転での動作解析	工学部人間支援　研究者			
				9 高齢者の自動車運転を支える未来	機械工学・自働運転の研究者			
				10 身体をサポートする支援技術	福祉工学研究者			
⑨	**SDGs（持続可能な開発目標）入門** （現代の社会問題）	近年、政府や自治体、企業、非営利団体や大学などで、SDGs（エス・ディー・ジーズ）に関するさまざまな取り組みが展開されています。SDGsとは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称であり、環境・社会・経済の3つの側面において持続可能な社会を実現するために、2015年に国連で採択された、17項目からなる全世界共通の目標です。 2030年を達成期限とするSGDsの実現に向けて、わたしたちにはいま、何が求められているのでしょうか。また、SGDsをどのように職場や地域、そしてわたしたちの日常生活に導入できるのでしょうか。 本講座では、SDGs誕生の背景やその具体的内容といった基礎知識から、自治体、企業、非営利団体や大学への導入のヒントまで、SDGsについて包括的に学びます。そして、新潟市・新潟県におけるSDGs実現に向けた取り組みの拡大を目指します。	企業・経営者、自治体、NGO・NPO、学校関係者など、SDGsの導入に関心のある方々や国際協力や環境、地域活性化、まちづくりに関心のある方々	1 総論：SDGsとは？	蟹江憲史（慶應義塾大学大学院教授）	山田　裕史		・H23「持続可能なにぎわいのある新潟の「まちなか」を目指して」※前期：36名（定員70名），後期：なし ・H24「環境共生―さまざまな視点から，持続可能な社会の構築を考える―」※前期：19名（定員70名），後期：なし ・H26「まちづくりの現在と行方」※前期：43名（定員70名），後期：19名（定員20名） ・H29「2050年の新潟市を展望する―次世代の地域活性化への処方箋―」※前期：44名（定員70名），後期：6名（定員20名） ・SDGsがテーマとなった講座は今までにありませんが，まちづくりや地域活性化などをメインテーマとした講座がございます。委員会での意見でもございましたが，メインターゲットである企業や経営者，自治体等からの受講者にとって「自分の会社，自治体等に学んだことを持ち帰る」というノウハウの要素についてご検討いただければ幸いです。 ・時期設定を早めにして特別講座での実施も良いかもしれません。
				2 MDGs（ミレニアム開発目標）からSDGsへ	中村絵乃（開発教育協会事務局長）			
				3 SDGsを理解するためのワークショップ	羽田幸恵・中原澪佳（新潟国際情報大学国際交流ファシリテーター推進員）			
				4 SDGsとビジネス	村上芽（日本総合研究所創発戦略センターシニアマネージャー）			
				5 SDGs達成に向けた取り組み①：企業	五十嵐悠介（新潟青年会議所理事長）			
				6 SDGs達成に向けた取り組み②：政府	北愛子（JICA新潟デスク国際協力推進員）			
				7 SDGs達成に向けた取り組み③自治体	見附市役所（自治体SGDsモデル都市担当者）			
				8 SDGs達成に向けた取り組み④：非営利団体	三上杏里（新潟国際ボランティアセンター代表）			
				9 SDGs達成に向けた取り組み⑤：大学	東信彦（長岡技術科学大学学長）			
				10 シンポジウム：SGDsと新潟の活性化	パネリスト：新潟市の行政、企業、NPO関係者。モデレーター：佐々木寛（新潟国際情報大学教授）			